



平成27年

12月の園だより



みみょう保育園

成道会 12月8日(火)

インドのシッダルタ王子（後のお釈迦様）が長い修行の末、お悟りを開かれた日が12月8日です。この日は、「良い子になりますように」とみ仏様に手を合わせます。健やかに、そして、『感謝と思いやり』の心もち、『何事にもやる気のある子ども』に育ってくれることを念じています。



12月22日(火)

昔は、どこの家でも年末に餅をつく杵の音がひびきわたっていました。今では、臼、杵、釜、蒸籠といった道具も家庭で少なくなっており、機械でついたり、店で買ってきたりしているようです。もちは「望」に通じ、物事が満ち足りたことをあらわします。正月に餅を供えて家族みんなが満足に、希望がかなえられるようにと願うのが習わしでした。

当園では、22日(火)にきりん組さんが、4、5歳児のおじいちゃん、おばあちゃんにいろいろ教えていただきながら、一緒にお餅を丸めたり、つくところを見たりして、楽しく過ごします。



生活発表会（第二みみょう幼児組参加）

日時 12月 5日(土)
9:00~14:30

場所 第二みみょう保育園5階ホール

子どもたちが毎日、劇や、合奏、表現などを楽しく取り組んできました。

当日は、様々な姿が見られることと思います。



保育子どもにとってよりよいを

秋らしい日が続いていたかと思うと、急に寒気がやってきました。園の前の公園には、恒例のイルミネーションが夕方になるとチカチカと光り、12月の訪れを感じます。

先日、当園がグループ園の職員に保育を公開する研究会を開きました。日々子どもたちへの関わり方、保育室などの環境の在り方、あそびの内容など、子どもたちにより良い保育を行うためのものです。午前中、子どもたちの遊ぶ様子をグループ園の皆さんに見ていただきましたが、たくさんの職員が見に来てくれ、中にはつい楽しくて、子どもたちと遊びだす職員もいるほどでした。子どもたちの方も、いつも通り元気いっぱい、赤ちゃんたちも初めはちょっとドキドキしていましたが、すぐにニコニコと遊び始めていました。

当日は、どの年齢も発達に合わせて幾つかのあそびを用意して、子どもたち自らが選べるようにし、既製の玩具より、布、ダンボール、落ち葉、どんぐりなどの、素材そのものをたくさん用意してあそびに使いました。こあら組は、白い大きな布をかぶって「いないいないばあ」をして遊んだり、いろいろな段ボールの中に入ったり出たりして遊びました。こじか組さんは暗い空間も作って、中でライトに色水を照らして光る様子をじっくり見て楽しんだり、どんぐりをペットボトルの中にポトンポトンと落としてじっくり遊んでいました。きりん組さんも、みみょう特製のライトテーブルの上におはじきやカラーセロファンをのせて、ライトに透ける様子を楽しんだり、長いロール紙にお絵かきをしたり、いろいろなあそびをしました。

子どもたちは、全身を使って、または目と手先をしっかりと動かして、あそびの中で様々な発見をし、かわいいつぶやきもたくさん聞くことができました。

こじか組のある子は卓上のライトに色水を照

らしているとき、じっとその色水を見つめながら「みてるだけ、みてるだけ」とつぶやいています。ライトに照らされた色水の輝きやゆらゆら揺れる感じや、透ける様子など、大人が見ても美しいと感じることを1歳の子どもでもちゃんと発見して感じる事ができたのだと思います。

園では、温かい雰囲気の中、一人ひとりを大切に、赤ちゃんのときから意欲満々、なんにでも興味を持って、やる気のある子に育てることを念頭に保育をすすめてきました。そのやる気を引き出すためには、たくさんのあそびを経験できるようにし、そのあそびを見守り、促し、支える保育士の在りようが大切と考えています。遊んでいる子どもの様子を、あそびを邪魔しないように、何を発見し何を思い、どのように楽しんでいるのか、しっかり見つめ、声かけや、次に出すあそびのタイミングなども気をつけなくてはなりません。さらに、子どもたちが毎日の園生活、あそびを楽しみ、意欲的に過ごせるようにするには、保育士が発達の道すじ、当園の保育課程を熟知し、常に子ども視線であることと、子どもが楽しめるあそびについて、専門性を高めていく必要があります。

今回の研究会で、子どもたちの感性の豊かさや、成長をあらためて感じる事ができ、グループ園の職員の皆さんにも、子どもたちの良い所をたくさん発見してもらいました。これからもみんなで保育についての学びを深め、子どもたちにとってより良い、楽しい保育になるよう努めていきたいと思っています。

保護者の皆さんも、日々の中で我が子の姿を見つめ、つぶやきに耳を傾けていただけたらと思います。きっとたくさんの成長した姿が見えてくることと思います。

暮れに向けて、お疲れも出る頃だと思います、お身体に気をつけて良いお年をお迎えください。

みみょう保育園 園長

ママ先生が伝える

幸せ子育てのコツ

2歳代はイヤイヤ期。自我が芽生え、自己主張を始める時期です。プライドが高く、自分で何でもやりたがります。でも、実際は一人でできないことが多いので葛藤が起こり結果的に「イヤイヤ」になります。

泣いたり、わめいたりしているうちに本人は訳が分からなくなってくることも多く、自分を自分で受け止められない状態が起こります。こんな時、自分の気持を理解して「はいはい、そうだね」と丁寧に受け止めてもらう事が大切なのです。その時に必ずしも「イヤイヤ」が止まらなくても、気持ちを受け止めてもらったことで、だんだん自分自身を受け止めていけるようになるのです。ですから単に「わがまま」だからと厳しく叱ってしつけるよりも、子どもに寄り添ったかわりが大切。しかし、ずっとイヤイヤに寄り添っていたら親だって辛くなってしまいます、次のような対処法はいかがでしょう。

- ◎「自分で決めたい!」(納得)と思わせる
「どっちがいい?」と子どもに選ばせます。
- ◎目先を変えたり、楽しみな見通しを伝える
イヤイヤ状態になったときは「じゃあお外に行ってみようか?」など目先を変えたり、「お家で大好きなおもちゃがまってるよ」など次の楽しみを伝えます。
- ◎環境を変える
場所を変えることで気持ちがおさまることがあります。ちょっと静かな所で抱きしめて気持ちがおさまるのを待ちましょう。

大豆生田啓友 著 「幸せ子育てのコツ」より



消さないで
あなたの心の
注意の火

広島市南消防署
警防課救助係